内閣官房「昭和 100 年」関連施策「薬害」の歴史に関する「昭和 100 年」特別展示

昭和100年 1926——2026

一般社団法人薬害研究資料館設立記念

薬害の歴史をひも解く

ー医薬品の光と影　ひとといのちの 100 年ー

2026年12月5日(土)ー12月13日(日)

京都市勧業館みやこめっせ地下展示場



薬害スモンにより病床に臥せる星三枝子さん（「グラフィック・ドキュメントスモン」より。撮影小林茂）

※「グラフィック・ドキュメントスモン」（編：実川悠太 / 文：羽賀しげ子 / 写真：小林茂 / 日本評論社 /1990 年）は、スモン訴訟東京地裁原告団の被害者がスモンの身で渾身の力を振り絞った運動の歴史を残しておきたいという思いから、原告団と支援者により編集委員会がつくられ 8 年の歳月を費やして完成したものである

後援：文部科学省 京都新聞
京都府教育委員会　京都市教育委員会

協力：厚生労働省

協賛：独立行政法人　医薬品医療機器総合機構

入場無料



薬害研究資料館 Yakugai Museum and Research Center KYOTO, JAPAN

主催：一般社団法人　薬害研究資料館　https://yakugai.org

薬害の歴史をひも解く

ー医薬品の光と影　ひといのちの100年ー

昭和初期、医薬品の国産化が推進され、欧米の技術を導入した生産が拡大しました。戦後は感染症に対する抗生物質の増産が急務となり、抗生物質とワクチンは国の公衆衛生政策の要となる医薬品に位置付けられました。

一方、医薬品の生産拡大と薬害は常に表裏にありました。ジフテリア予防接種禍やストレプトマイシン難聴、ペニシリンショックが姿を現し、国民皆保険制度が成立した1961年（昭和36年）にはサリドマイド薬害が生じています。

本展示では、昭和100年という時間軸における医薬、薬害、公衆衛生政策の流れを並列し、歴史の交差を描くことを試みました。また、薬害という概念を生み出すきっかけともなった公害との関連にも目を配り、歴史的文脈において薬害が占める位置を明らかにします。加えて被害に遭った人々の物語も伝えたいと思います。

展示

薬害歴史展示

昭和百年史において、主に戦後から繰り返される薬害の歴史を写真や資料、年表などを用いて分かりやすく展示

薬害被害者の肖像

薬害被害者の肖像写真を配置して、被害者一人ひとりのナラティブに触れることのできる展示

映画

「阿賀に生きる」　12月5日　17:00-20:00

山間の鹿瀬(かのせ)町に住む長谷川芳男・ミヤエさん夫婦は先祖代々田んぼを守り続けている。阿賀野川に浮かぶ舟の大半ー200隻以上の川舟を造った大工・遠藤武さんとそれを見守る妻ミキさん、名人と呼ばれる餅つき職人・加藤作二さんとその妻キソさんら３組の夫婦の日常をカメラが追い続ける。新潟水俣病という社会的なテーマを根底に据えたドキュメンタリー

＋鼎談「水俣病からスモンへ」小林茂（映画監督）秦岳志（京都芸術大学）花井十伍（薬害研究資料館）

「ノーモアスモン」　12月12日　13:00-14:30

キノホルムという薬品によって、いのちと健康を侵された人たちのいのちの叫び。薬害根絶のために身を削って運動する人たちの生きざま。

＋鼎談「薬害スモン」石下洋子、柳田かや子（広島スモンの会）花井十伍（薬害研究資料館）

「薬に病む　クロロキン網膜症」　12月13日　12:00-14:30

たとえて言えば、薬の海にいくつものしたいが浮いていますよく見ると、溺れかかっている人がもっといますはっとまわりを見まわすと、自分もその海の中につかっていました

＋対談「クロロキン薬害」本郷正武（桃山学院大学）花井十伍（薬害研究資料館）

シンポジウム

薬害を教育でどう伝えていくか　12月6日　13:00-15:00

平田收正（京都薬科大学）粂和彦（名古屋市立大学）上村浩代（厚生労働省）勝村久司（薬害研究資料館）

サリドマイド被害の現在地　12月12日　14:45-16:45

増山ゆかり（OneTeam）佐藤嗣道（公益財団法人いしずえ）蘭由岐子（追手門学院大学）
司会　佐藤哲彦（関西学院大学）

薬害とメディア　12月13日　14:45-16:45

藤谷和広（朝日新聞）玉木達也（毎日新聞）岡本晃明（京都新聞）迫田朋子（元NHK）勝村久司（薬害研究資料館）

セミナー

新しい薬害の社会学　12月9日　11:00-12:30

蘭由岐子（追手門大学）佐藤哲彦（関西学院大学）花井十伍（薬害研究資料館）

フォーラム

薬害根絶フォーラム　12月5日　13:15-16:30

全国薬害被害者団体連絡協議会主催による、薬害根絶を目指すフォーラム